

第28回 広瀬川創生プラン策定推進協議会議事録

- 日 時：平成 27 年 8 月 20 日（木曜日） 10：00～12：00
- 場 所：仙台市役所本庁舎 2階第4委員会室
- 出席委員：江成 敬次郎 会長，伊藤 絹子 会長代理，及川 稔 委員，工藤 秀也 委員，
後藤 淳 委員，菅井 一男 委員，杉山 ふじ子 委員，西大立目 祥子 委員，
二本柳 基 委員，長谷川 裕寿 委員，遊佐 久昭 委員
- 欠席委員：坂口 純子 委員，佐藤 克彦 委員，深松 努 委員，宮原 育子 委員
- 事務局：仙台市建設局百年の杜推進部河川課
- 司 会：河川課 安田 敏弘 課長

■ 次 第：

1. 開 会
2. 会長挨拶
3. 議 事
 - 1) 平成 26 年度/27 年度重点事業の評価/報告について
 - 2) 広瀬川市民会議の運営体制の強化検討について
4. 閉 会

■ 要 旨：

- 平成 26 年度の重点事業評価について、事務局提案内容で承認された。
- 平成 27 年度の重点事業評価について、今回の事務局提案の実施報告を基本として評価シートを作成し、次回協議会において評価を行うこととなった。
- 広瀬川市民会議の運営体制強化について、1 万人プロジェクトとのフォーラムや企画の開催等、事務局提案の内容で承認された。また、アサヒビール様からの寄付金の一部をそれらのイベントに活用することも、承認された。

■ 議事詳細：

1. 開会

○司会（安田課長）

ただ今より「第28回 広瀬川創生プラン策定推進協議会（以下、協議会）」を開会する。工藤委員と坂口委員においては、出席の予定であり、工藤委員からは移動中に事故にあい遅れるとの連絡をいただいている。

初めに、本年4月より人事異動および組織再編により、新しく委員に就任頂いた方を紹介する。

○長谷川委員（ニッカウキスキー株式会社 仙台工場 理事 工場長）

前任の佐藤より4月から引き継いだ。よろしく願います。

○二本柳委員（財団法人 仙台観光国際協会 常務理事兼国際化事業部長）

昨年度までは仙台観光コンベンション協会が参画していたが、4月に仙台国際交流協会と組織統合を行い、仙台観光国際協会となった。よろしく願います。

○遊佐委員（宮城県仙台土木事務所 河川砂防第一班長）

4月の異動により、前任の金野より引き継いだ。よろしく願います。

○司会（安田課長）

国土交通省東北地方整備局 仙台河川国道事務所調査第一課長 佐藤 克彦様 においては、本日、所用により欠席のご連絡をいただいている。

また、深松委員と宮原委員においても、欠席との連絡をいただいている。なお、伊藤会長代理においては、所要により中座するとの連絡をいただいている。

続いて、本年4月の人事異動により変更となった仙台市職員についてご紹介させていただく。

○高橋 建設局長

4月から建設局長に就任した。昨年度までは若林区長を担当していたため、お世話になった方もお見受けする。1年間、よろしく願います。

○村上 建設局次長

4月から建設局次長に就任した。昨年は都市整備局次長を担当していた。よろしく願います。

2. 会長挨拶

○江成会長

大変暑い中、ご参集いただき感謝申し上げます。創生プラン改定後初めての協議会ということで、改定したプランの推進に向かって検討して参りたい。協議会は午後に行われることが多いが、本日は予期していたかのように午前の開催となった（当日午後13:00より高校野球 仙台育英高校の決勝戦が予定されていた）。また、夕方からは、広瀬川創生プランの取組事業でもある「広瀬川灯ろう流し」が予定されている。ご先祖の皆様の良い報告ができるよう、活発な議論をお願いする。

3. 議事

○司会（安田課長）

出席委員が過半数に達しており、本日の会議は成立している。以降の議事の進行については江成会長に願います。

○江成会長

まず、今回の議事録署名は五十音順で後藤委員にお願いしたいがいかがか。

=一同了承=

0) 本日起り扱う議事について

○江成会長

まず、今回が初めての参加となる委員もいるので、本日起り扱う議事内容について、事務局から説明をお願いします。

○事務局（杉井 広瀬川創生室長）

資料1および改訂版広瀬川創生プラン冊子の内容に沿って、以下の項目について説明。

- ✓ 広瀬川創生プラン 改定の基本方針
- ✓ 広瀬川創生プラン策定推進協議会の役割
- ✓ 議事1「平成26年度/27年度重点事業の評価/報告」について(協議会の役割に基づき説明)
- ✓ 議事2「広瀬川市民会議の運営体制の強化検討」について(協議会の役割、およびこれまでの協議会における検討過程を交えながら説明)

○江成会長

今の事務局からの説明について、質問等が無ければ、議事に入るがいかがか。特に今回が初めての参加となる委員は、何かわからないことがあれば、具体的な議事の中でもよいので、遠慮せずに質問いただきたい。

=一同了承=

1) 平成26年度/27年度重点事業の評価/報告」について

○江成会長

それでは、議題1「平成26年度/27年度重点事業の評価/報告」について、初めに平成26年度重点事業の評価について、事務局から説明をお願いしたい。

○事務局（杉井 広瀬川創生室長）

資料2および3に基づき以下の項目について説明。

- ✓ 広瀬川1万人プロジェクトの開催
- ✓ アイラブ広瀬川プロジェクトの実施

○江成会長

今の事務局からの説明について、何か質問等はあるか。

○二本柳委員

「1万人プロジェクト」を構想したときに、「1万人」を掲げた根拠や背景について説明頂きたい。

○杉井 広瀬川創生室長

資料1裏面にもあるが、「100万都市、仙台市の1%」にあたる1万人の市民が一斉に広瀬川に関わることのできる活動としたいという背景で構想している。現状は一度の一斉清掃あたり1,000人程度の参加にとどまっているが、広瀬川本線だけでなく、支線等にも範囲を拡大して広瀬川流域全体を対象とすることで、将来的な「参加人数1万人の達成」を目指していきたいと考えている。

○江成会長

ちなみに、累積の参加人数では、昨年度に1万人を突破している。

○二本柳委員

参加人数1万人を目指すためには清掃会場を拡大していく必要があるとのことであるが、具体的な方針や施策は、創生プランの中で定められているのか。

○杉井 広瀬川創生室長

広瀬川1万人プロジェクトの推進は「広瀬川1万人プロジェクト実行委員会」が担っており、仙台市も参画しているものの、間接的な関わりとなっている。そのため、プランの中で年次計画を定める、といった具体的な施策は定められていない。清掃会場拡大も含めて、今後も継続してこのプロジェクトが発展・拡大していくためにも、参画企業および団体のより一層の連携、相互理解が不可欠であるという認識であり、今年度からプロジェクト内部の積極的な交流を目指して、様々な企画を検討中とのことである。

○杉山委員

1万人プロジェクト秋の一斉清掃で大橋会場の担当をしている。前日までの準備や当日の受付作業等、事務作業量が膨大であり、それに追われてしまっているのが会場担当者としての現状である。こういった会場担当者の負担軽減のためにも、1万人プロジェクトに参加している企業・団体の交流を深めていくことが重要だと感じている。

○菅井委員

宮沢橋会場の担当をしている。宮沢橋会場は参加者が多く、ゴミもかなり減ってきている。アクセスが良いため、家族連れなどがピクニックで来ていることも多く、これらの人たちも楽しめるような、一斉清掃以外の活動も望まれていると感じている。

○江成会長

事務局から提案された評価シートは、今各委員からいただいた意見もふまえた内容になっているといえることから、平成26年度の重点事業については、事務局からの評価シートの内容で評価してよろしいか。

＝一同了承＝

○江成会長

それでは、続いて平成27年度重点事業の実施報告について、事務局から説明をお願いしたい。

○杉井 広瀬川創生室長

- ✓ 平成27年度の重点事業のうち、既に実施済みのものについて、簡単な実績報告を資料2、4、5に沿って説明。
- ✓ 資料2…平成27年重点事業一覧
- ✓ 資料4…広瀬川で遊ぼう 実施報告書
- ✓ 資料5…作並かつば祭り 実施報告書
- ✓ 正式な評価は、それぞれの事業の実行委員会において、決算等の議決・承認が完了するのを待ち、先ほどの平成26年度の評価同様、「重点事業評価シート」に沿って、次回の協議会において審議に諮らせて頂ければと思っている。

○江成会長

今の事務局からの説明について、何か質問等はあるか。

○長谷川委員

作並かっぱ祭りでは、今回初めて事前申込制とした。これにより、お客様の満足度の向上および適切な安全管理体制の確保が可能となった。昨年の体制では、参加者が殺到した場合には管理が困難であったが、今年は人数の把握ができていたため、工場見学のお客様との分離もでき、スタッフ/参加者双方にとって非常に良かったと感じている。来年も、会場の広さを考慮して400人程度を限度として、今回のような人数制限を設けた上で実施したいと考えている。

○江成会長

ただいま報告いただいた平成27年度重点事業の実施報告について、今回の内容をベースにして次回以降の協議会にて正式な事業評価をすることとする。

2) 「広瀬川市民会議の運営体制強化」について

○江成会長

それでは、議題2「広瀬川市民会議の運営体制強化」について、事務局から説明をお願いしたい。

○杉井 広瀬川創生室長

✓ 資料6に沿って、プランにおける本議題の位置づけ、およびこれまでの検討の過程等を踏まえながら説明。

○江成会長

これまで幹事会にて検討を進めてきた。その経緯等についてご説明頂いたが、何か意見はあるか。

○二本柳委員

広瀬川学校等の企画の対象はどの範囲になるのか。

○江成会長

まずは、広瀬川市民会議と広瀬川1万人プロジェクトとの連携を図るべく、対象を両団体の関係者と家族としたいと考えている。相互の理解が進んで来たら、広く一般市民を対象とした企画としたい。

○伊藤会長代理

実際に川に行ってみて、気づくこと等を共有する体験を通して、相互理解の第1歩としようという思いで、「広瀬川学校の共同開催」を考えている。例えば秋だとサケの遡上とアユの産卵が重なる時期もあり、川での体験という意味では魅力的な時期でもある。

○江成会長

これらのイベントにはアサヒビール様からの寄付金を活用したいと考えている。また広瀬川学校については国土交通省主管の水辺の楽校(がっこう)との関係も考慮する必要がある。

○及川委員

東北電力が保有する施設のうち、広瀬川に関する施設としては、三居沢の電気百年館がある。こういった施設を広瀬川学校のような企画に使用することは可能である。

○二本柳委員

観光国際協会では、海外へ向けた情報発信として、様々な観光スポットを留学生の視点で評価をしてもらう活動を行っている。広瀬川も観光資源として海外へアピールできる要素は多く有しているといえる。

○西大立目委員

昔は川での遊び方や危険性については両親から子へ、成長の中で自然に身につくものであった。しかし現代社会においては、子供が川で遊ぶ機会は激減しており、家でも学校でも、危険なため近づかないような指導がされている側面もある。そういったことを鑑みると、社会的な立場で川に触れる機会を提供することが重要である。しかし、ニジマスつかみ取りのような、人工的な環境における川への親しみ方もあるが、本当の川の魅力は自然の中で生き物や植物に触れることで得られるものであり、こういった意識が市民に根付くことが重要であると考えている。

またボランティア養成講座については、年代的に川に触れる機会がまだ多かったと思われる、団塊世代の方々を対象に、自身の経験を次世代の子供たちへ伝える機会を提供したいと考えている。

○後藤委員

杜の都仙台において、広瀬川はその中心的な存在であり、「広瀬川学校」の企画や主旨はとても良いものだと思う。このような企画も含めて、いかに広瀬川に人を呼ぶかということが課題である。そのためにも、企画やイベントの際にはマスコミの力も積極的に活用していくべきであると考えている。

○菅井委員

現在でも新聞等でボートくらぶについて取り上げてもらう機会がしばしばある。取り上げられた次の日は非常に多くのお客様が来られるなど、マスコミによる集客効果はやはり大きい。単発の企画やイベントのみならず、広瀬川創生プラン自体の認知度を上げるためにも、アサヒビール様からの寄付金の一部を広告宣伝に充てることも必要ではないか。

また、別のNPO団体で「田んぼの学校」と称して子供たちに田植え～収穫までの体験をさせたことがある。こういった企画に対する学校の教師たちの反応は、ぜひ自校の生徒を参加させたいと快諾してくれる方もいれば、年間カリキュラムが決まっているので参加できないと断わる方もいる。このように学校側も自然体験に対する反応が様々であるため、広告宣伝をもう少し強化して、認知度を上げることで、学校単位での参加等の機会も得やすくなるのではないか。

○江成会長

広瀬川学校やボランティア養成講座等、各委員においては、広瀬川市民会議の運営体制強化に資する企画として、ぜひとも積極的なご協力をお願いしたい。また、本議題に関連して、広瀬川フォーラムについて事務局より説明をお願いしたい。

○杉井 広瀬川創生室長

✓ 資料7に沿って、広瀬川フォーラムの概要について説明。

○江成会長

各委員においては、ぜひフォーラムへの積極的な参加をお願いしたい。

それでは、広瀬川市民会議の運営体制強化の方向性、およびアサヒビール様からの寄付金をこれらの企画に活用していくことについて、事務局からの提案内容でよろしいか。

＝一同了承＝

○江成会長

他に意見・質問がなければ、以上の内容を事務局で議事録にまとめていただき確認することとして、本日の議事を終了したい。

=工藤委員が到着=

○江成会長

せっかく工藤委員がお越しになられたので、広瀬川市民会議の運営体制強化の課題等に触れつつ、一言いただきたい。

○工藤委員

広瀬川市民会議に参加して10年が経過した。広瀬川は景観のみならずまちづくりへの活用等、非常に重要な資産であるが、広瀬川創生プランについては、今年の1月にフォーラムを開催したものの、認知度はまだまだ低い。これまでは市民の関心高揚を念頭においていたが、次の10年は、広瀬川が市民の生活にどのように影響しているのか提起していくような、バージョンアップした活動が必要である。広瀬川市民会議は、広瀬川創生プランの推進主体であるが、残念ながら高齢化等の問題により運営体制が弱体化している。そのため、広瀬川創生プランの推進活動を社員教育およびCSR活動の一環として捉えていただき、企業への協力を求めていくことが、今後の継続的なプラン推進に重要であると考え。広瀬川市民会議の代表として、ぜひとも運営体制強化にご協力をお願いしたい。

4. 閉会

○司会（安田課長）

これをもって「第28回広瀬川創生プラン策定推進協議会」を終了する。

以上